

令和 7 年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験＜一般＞（秋期）出題の意図

試験 科目	専門科目 B (教育学系)	講座		研究 分野	
----------	----------------------	----	--	----------	--

（ 3 枚中の 1 枚目）

（教育人間学）

問題 I

この問題は、人間の日常的な生活のなかに見られる抽象的・一般的な主題についていかに教育学的な観点ないし教育人間学的な観点から論じることができるのかを観るためのものである。

問題 II

この問題は、博士前期課程入学後に、教育人間学・教育哲学・教育思想史の領域で研究を遂行していくためのレディネスが一定程度、そなわっているかどうかを観るためのものである。

（人間変容論）

問題 I

J.-F. リオタールの「大きな物語」批判以降、「ナラティブ」については、医療、心理療法をはじめ教育学においても重要な主題として、批判的あるいは肯定的に論じられてきている。そこで、問題 I は、教育学及びその周辺領域における先行研究を踏まえ、自身の主張を論理的に説明できることを確認するために出題した。

問題 II

教育思想史、教育哲学とともに、人間変容論の分野における研究のために必要とされる基本的な語句の意味を理解し、かつ、簡潔に説明する力量の有無を評価するために出題した。

（教育工学）

問題 I

問題 I は探究というキーワードのもとに、現代の学校教育の内容や方法について論じるものである。この話題の周辺についての知識を確認するとともに、その可能性と課題を考えさせることを通して、人間や社会、教育問題に関する教養的知識、その知識に基づき思考する態度、批判的思考力および自身の意見を論理的に記述する能力を測る。

問題 II

問題 II は、教育工学研究に必要となる知識として、教育改革に関する教養的知識および、教育の方法、教育課程、教育評価、教育心理学、そして、研究方法論、統計学に関する学術的知識の理解度を確認するものである。

令和 7 年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程＜一般＞入学試験（秋期）出題の意図

試験 科目	専門科目 B (教育学系)	講座		研究 分野	
----------	----------------------	----	--	----------	--

（ 3 枚中の 2 枚目）

（教育心理学）

問題 I

教育的支援としての心理検査の役割と実施における手続や留意点について理解できていることを確認するため。また、臨床的配慮についての知識を問うものである。

問題 II

治療教育モデル、回復モデル、修復的司法モデル（社会モデル）について、それぞれの具体例を挙げることができるかを確認するため。また、相違点や共通点を理解できているかを確認するとともに、説明する際の文章力や表現力等を把握するための問いである。

（臨床心理学）

問題 I

- （1）周産期うつ病に関する知識、その対応について問うている。
- （2）医師との連携と診断名に対する理解を問うている。
- （3）子どもを対象とした代表的心理療法についての基礎的な理解を問うている。

問題 II

- ①対象関係論の知識を問うている。
- ②アセスメントや研究の対象者の属性に関する基本的理解を問うている。
- ③D. Winnicott の述べる語についての理解を問うている。
- ④臨床心理学における重要な概念の理解を問うている。

（教育制度学）

問題 I

教育制度学研究における半世紀における先行研究への理解、知識を問うことを目的としている。

（生涯教育学）

問題 I

国際的な課題について、原因と対応策を整理した上で、「教育」の観点を盛り込み、それぞれについて論理的に説明できるかを評価する意図で出題した。

問題 II

広く生涯教育に関わる基本的、今日的な語句を理解し、簡潔に説明する力の有無を評価することを意図して出題した。

令和 7 年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験＜一般＞（秋期）出題の意図

試験 科目	専門科目 B (教育学系)	講座		研究 分野	
----------	------------------	----	--	----------	--

(3 枚中の 3 枚目)

(教育文化学)

問題 I

近年、エビデンス（科学的根拠）に基づく政策の必要性が主張されるようになっており、教育現場はエビデンス重視の政策への対応を迫られるようになっている（「学力」向上や学校経営における「PDCA」サイクルなど）。教育社会学の研究成果がエビデンスの収集や評価に生かされることも増えている。しかし、エビデンスとされるものの中に根拠が曖昧なものが混じっていることや、教育的価値を吟味しないままにエビデンスが収集・測定されていることを批判する意見もある。このようなエビデンスの意義と限界の両方に目配りして研究ができる資質があるかをみたいと考え、この問題を出題した。

問題 II

教育学・教育社会学の重要概念や方法論に関わる基礎的知識の理解度をみるために出題した。